

令和 2 年度

北但行政事務組合決算審査意見書

一 般 会 計 決 算

基 金 運 用 状 況

北但行政事務組合監査委員

令和3年9月27日

北但行政事務組合

管理者 関 貫 久仁郎 様

北但行政事務組合

監査委員 羽 尻 知 充

監査委員 松 井 正 志

令和2年度北但行政事務組合一般会計決算
及び基金運用状況の審査意見について

地方自治法第292条において準用する同法第233条第2項及び同法第241条第5項の規定により審査に付された、令和2年度北但行政事務組合一般会計歳入歳出決算及び決算附属書類並びに令和2年度基金運用状況について審査したので、次のとおりその意見を提出します。

目 次

第1	審査の対象	1
第2	審査の期間	1
第3	審査の方法	1
第4	審査の結果	1
1	総括	1
2	決算の状況	3
3	財政の状況	4
4	財産の状況	7
5	基金の運用状況	7
6	審査の所見	8
[参 考 資 料]		
	歳入歳出決算前年度比較表	9

※ 各表中、一部の表は資料の都合により千円単位で表示しており、合計と内訳の計、差引及び前年度比較が一致しない場合がある。

令和2年度北但行政事務組合一般会計決算 及び基金運用状況の審査意見書

第1 審査の対象

- 1 令和2年度 北但行政事務組合一般会計歳入歳出決算
- 2 決算附属書類
令和2年度北但行政事務組合一般会計歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書
- 3 基金の運用状況に関する調書

第2 審査の期間

2021年6月14日から9月16日まで

第3 審査の方法

- 1 令和2年度の一般会計歳入歳出決算書及び決算附属書類について、会計管理者及び組合当局から必要な書類の提出を求め、事項別に説明を聴取するとともに、定期監査及び行政監査並びに例月現金出納検査の結果を参考にしつつ、審査の過程に応じ適宜関係諸帳簿と照合し、計数審査を行ったほか予算執行状況等を審査した。
- 2 令和2年度の基金について、関係諸帳簿と照合し、計数及び運用状況を審査した。

第4 審査の結果

審査に付された一般会計歳入歳出決算及び決算附属書類は、いずれも関係法令及び議会の議決に則ったものであり、計数は関係諸帳簿と符合し正確であると認められた。また、予算の執行状況についても、おおむね適正であると認められた。

なお、要望事項等については「6 審査の所見」に述べているので、今後対応等を求める。また、軽易な注意事項等については、その都度口頭で改善指導したので記述を省略した。

以下、審査の結果は次のとおりである。

1 総括

北但ごみ処理施設の維持管理及び広域ごみ・汚泥の処理に関する事務を共同して行うことを主要な事業として取り組んでいる。

施設運営事業者としてタクマグループの設立したSPC（特別目的会社）「ほくたんハイトラスト株式会社」が管理業務を行っている。稼働から4年経過し、（一財）日本環境衛生センターによる第三者運営モニタリング（監視）の結果、指摘事項もなく適正に運営できているという報告を受けている。

- (1) 市町別のごみの受入状況は、豊岡市28,365.24 t（一般廃棄物処理基本計画対比102.12%）、香美町6,061.61 t（一般廃棄物処理基本計画対比100.14%）、新温泉町4,607.50 t（一般廃棄物処理基本計画対比88.04%）、全体で39,034.35 t（一般廃棄物処理基本計画対比96.80%）となっている。

- (2) 新型コロナウイルス対策にともなう緊急事態宣言が発令され、巣ごもり生活となった影響で、搬入車両が1日400台を超える日が6日あったが、令和2年度も、スムーズな受入体制をとることができている。
- 排ガス自主保証値を遵守しながら安全に施設稼働を行い、計画外休止は、水銀濃度が自主保証値を超える恐れがあったため7回焼却停止を行ったが、安全のための一時的な停止であり、マニュアルに基づき適正に対応し関係者に報告も行っている。
- (3) 施設には、資源循環と環境保全について考える体験の場を備えており、施設の見学者は、各種市民団体等で18団体643人、一般見学者で14人となっている。さらに、豊かな自然環境が存在する立地を生かし、自然との共存・共生を図るために、ふれあい体験イベントを2回開催し、60人の参加者があった。
- (4) 事業推進に当たり地元等との協議及び報告を行っている。施設運営委員会を1回開催し、環境保全状況、土壌調査の結果、管理施設における監視体制、地域振興事業の進捗状況、新型コロナウイルス感染症対策などの報告を行っている。
- また、毎月月例報告として、ごみ受入状況、環境監視の状況などの報告を行っている。引き続き事業運営への理解を得るように努めている。
- (5) 令和元年度に実施した調整池浚渫工事の際に造成した残土処分場への危険防止対策として、残土処分地整備工事を実施している。また、クリーンパーク北但利用者の利便性を向上させるため、施設内の誘導表示板の設置工事を実施している。
- (6) 北但ごみ処理施設建設に伴い策定された「広域ごみ・汚泥処理施設建設に伴う森本区・坊岡区地域振興計画」については、当年度は4事業（森本団地児童公園遊具安全点検、林道・作業道補修用資材対応、コミュニティ活動への支援等）を実施している。
- (7) 主な自主財源は、ごみ処理手数料144,366,300円、資源化物売払収入24,502,054円、電力売払収入190,448,679円である。
- 資源化物売払の品目は、破碎鉄、破碎アルミ、スチールカン及びアルミカン圧縮成型品、紙製容器包装等であり、上半期と下半期で契約を行い、実績に基づき歳入している。予算に対する収入率は111.4%となっている。
- 電力売払は、株式会社タクマエナジーと契約を行い、実績に基づき歳入している。前年度と比較すると売電量が786,583kWh減少したことにより、売電収入が9,955,878円減額となっている。

2 決算の状況

(1) 決算の概要

(単位:円)

区分	歳入総額	歳出総額	歳入歳出差引額	翌年度繰越財源	実質収支額
令和2年度	716,415,922	700,236,160	16,179,762	0	16,179,762
令和元年度	750,790,334	716,247,518	34,542,816	0	34,542,816
比較	△34,374,412	△16,011,358	△18,363,054	0	△18,363,054

歳入総額716,415,922円、歳出総額700,236,160円、歳入歳出差引額は16,179,762円の黒字決算となっている。

前年度と比較すると、歳入総額は34,374,412円の減額、歳出総額は16,011,358円の減額、歳入歳出差引額（差引形式収支額）は18,363,054円の減額となっている。

(2) 歳入

(単位:千円、%)

款別	年度	令和2年度			令和元年度 決算額	対前年比
		予算現額	決算額	収入率		
分担金及び負担金		318,440	318,440	100.0	327,376	97.3
使用料及び手数料		150,085	144,451	96.2	152,960	94.4
財産収入		214,001	214,953	100.4	229,087	93.8
繰越金		34,542	34,543	100.0	36,633	94.3
諸収入		2,698	4,029	149.3	4,734	85.1
計		719,766	716,416	99.5	750,790	95.4

当年度の歳入は、予算現額719,766千円、決算額716,416千円で、予算現額に対する収入率は99.5%となっている。決算額を前年度と比べると4.6ポイント減少している。

なお、不納欠損額及び収入未済額は0円である。

(3) 歳出

(単位:千円、%)

目別	年度	令和2年度			令和元年度 決算額	対前年比
		予算現額	決算額	支出率		
議会費		993	817	82.3	885	92.3
総務費		52,361	51,639	98.6	52,658	98.1
衛生費		666,112	647,780	97.2	662,705	97.7
予備費		300	0	0.0	0	—
計		719,766	700,236	97.3	716,248	97.8

当年度の歳出は、予算現額719,766千円、決算額700,236千円で、予算現額に対する支出率は97.3%となっている。決算額を前年度と比較すると2.2ポイント減少している。予算現額から決算額を差引いた不用額は19,530千円である。

なお、予備費は当初予算額300千円であり、予備費充当の必要がなかったため同額が不用額となっている。

(4) 決算額等の推移

直近5か年間の決算額等の推移は、次のとおりである。(単位：千円、%)

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
歳入	決算額	2,973,569	702,792	722,380	750,790	716,416
	前年対比	63.2	23.6	102.8	103.9	95.4
歳出	決算額	2,908,973	676,502	685,747	716,248	700,236
	前年対比	61.9	23.3	101.4	104.4	97.8
差引収支額		64,596	26,290	36,633	34,542	16,180
(うち繰越明許費繰越額)		0	0	0	0	0
実質収支額		64,596	26,290	36,633	34,542	16,180
単年度収支額		58,972	△38,306	10,343	△2,091	△18,362
一般廃棄物 処理施設基金	積立額	10,000	14,001	17,502	19,004	19,202
	繰入額	0	0	0	0	0
実質単年度収支額		68,972	△24,305	27,845	16,913	840

※ 一般廃棄物処理施設基金は、実質黒字要素として位置付けている。

3 財政の状況

歳入総額716,416千円の内訳は、分担金及び負担金〔構成市町負担金〕318,440千円（構成比44.4%）、使用料及び手数料144,451千円（構成比20.2%）、財産収入214,953千円（構成比30.0%）、繰越金34,543千円（構成比4.8%）、諸収入4,029千円（構成比0.6%）である。

歳入では、ごみ処理手数料が減収となっている。これは、巣ごもり生活となった影響で直接搬入の台数は増加したが、搬入量は減少したためで、飲食店等の営業時間短縮や休業の影響が大きいと考えている。また、資源化物売払収入も契約単価が大きく下落したことにより減収となっている。

歳出総額700,236千円の内訳は、議会費817千円（構成比0.1%）、総務費51,639千円（構成比7.4%）、衛生費647,780千円（構成比92.5%）である。衛生費〔(項)清掃費(目)施設運営管理費〕の主な支出は、施設運営委託業務481,395千円、ばいじん処理委託業務30,012千円、最終処分場負担金81,096千円である。

歳出における不用額19,530千円の内訳は、議会費176千円、総務費722千円、衛生費18,332千円、予備費300千円となっている。

歳出では、新型コロナウイルス感染対策のためのアルコール消毒液等の購入により需用費が増となっているが、おおむね見込みどおりの執行となっている。

なお、施設運営委託業務は、2014年度から2036年度の債務負担行為を設定し、ほくたんハイトラスト(株)に委託している。(管理運営業務の全体契約額8,842,050千円)

(1) 性質別歳出の状況

性質別歳出の状況は、次のとおりである。

(単位：千円、%)

区 分		令和2年度		令和元年度		対前年度 増 減
		決算額	構成比	決算額	構成比	
経常的 経 費	人件費	17,842	2.5	16,145	2.3	1,697
	物件費	531,953	76.0	540,033	75.4	△8,080
	維持補修費	542	0.1	0	0.0	542
	補助費等	130,112	18.6	128,247	17.9	1,865
	小 計	680,449	97.2	684,425	95.6	△3,976
臨時的 経 費	物件費	0	0.0	841	0.1	△841
	普通建設事業費	585	0.1	11,978	1.7	△11,393
	積立金	19,202	2.7	19,004	2.6	198
	小 計	19,787	2.8	31,823	4.4	△12,036
合 計		700,236	100.0	716,248	100.0	△16,012

(2) 構成市町負担金の内訳

構成市町負担金の内訳は、次のとおりである。

(単位：千円)

区 分	処理（運営）費分	地域振興費分	負担額合計
豊岡市	219,606	0	219,606
香美町	53,803	0	53,803
新温泉町	45,031	0	45,031
合 計	318,440	0	318,440

※1 処理（運営）費分の負担割は、均等割（10%）、ごみ量割（90%）である。

※2 地域振興費分の負担割は、均等割（15%）、人口割（85%）である。（令和2年度の事業負担額実績額はなかった。）

(3) ごみ処理手数料の内訳

ごみ処理手数料の構成市町の内訳は、次のとおりである。

ア ごみ受入量

(単位：台、t)

区 分	燃や す ご	燃や さ ない ごみ	粗 大 ご	ビン・ カ ン	ペ ット ボ トル	その他	計
豊岡市	38,857	6,081	5,959	959	394	1,925	54,175
	23,138.10	1,168.36	880.84	524.79	87.90	2,565.25	28,365.24
香美町	9,242	1,144	1,276	372	145	1,417	13,596
	3,950.26	195.14	212.45	140.51	27.42	1,535.83	6,061.61
新温泉町	3,679	367	644	5	2	300	4,997
	3,576.92	160.67	143.97	0.05	0.01	725.88	4,607.50
合 計	51,778	7,592	7,879	1,336	541	3,642	72,768
	30,665.28	1,524.17	1,237.26	665.35	115.33	4,826.96	39,034.35

- ※1 市町別の上段は台数、下段は重量である。
 ※2 新温泉町のビン・カン及びペットボトルは、一般の方が施設に直接持ち込みされたものである。
 ※3 重量は、搬入時の計量データによるものである。

イ ごみ処理手数料

市 町	区 分	台数 (台)	重量 (t)	料金(円)	料金割合 (%)
豊 岡 市	許可	7,331	7,575.93	75,759,300	52.48
	一般	27,187	2,144.55	21,445,500	14.85
	一般事業系	7,139	1,916.84	19,168,400	13.28
	県・官公庁	81	20.25	202,500	0.14
	計	41,738	11,657.57	116,575,700	80.75
香 美 町	許可	404	308.34	3,083,400	2.14
	一般	6,646	612.12	6,121,200	4.24
	一般事業系	1,910	625.99	6,259,900	4.34
	県・官公庁	36	4.88	48,800	0.03
	計	8,996	1,551.33	15,513,300	10.75
新温泉町	許可	489	659.11	6,591,100	4.57
	一般	2,104	252.77	2,527,700	1.75
	一般事業系	670	312.34	3,123,400	2.16
	県・官公庁	22	3.51	35,100	0.02
	計	3,285	1,227.73	12,277,300	8.50
総 計		54,019	14,436.63	144,366,300	100.00

- ※1 許可とは、一般廃棄物収集運搬許可業者、一般とは、一般家庭や登録事業者（手数料後納業者）ではない事業者、一般事業系とは、登録事業者（手数料後納業者）のことである。
 ※2 関係市町（直営、汚泥、災害ごみ等）及び収集運搬委託業者については、ごみ処理手数料は徴収しない。

(4) 実質収支の状況

実質収支に関する調書を、歳入歳出決算書及び同事項別明細書と照合して審査した。当年度における実質収支は、16,180千円の黒字となっている。

(単位：千円)

区 分	金 額
歳 入 総 額	716,416
歳 出 総 額	700,236
歳入歳出差引額	16,180
翌年度へ繰越すべき財源	0
実 質 収 支	16,180

4 財産の状況

財産に関する調書及び財産台帳により審査した。その概要は、次のとおりである。

(1) 土地及び建物

(単位：㎡)

区 分			土地（地積）	建物（延べ面積）	参 考
			現 在 高	現 在 高	
行政 財産	その他 の行政 機 関	廃棄物処理施設	22,350.00	15,807.25	クリーンパーク 北但
	公共用 財 産	山 林	261,732.21	56.70	森林里山ゾーン、 進 入 路
		そ の 他 の 施 設	881.81	40.57	管理施設
合 計			284,964.02	15,904.52	

※ 決算年度中の増減はなし

(2) 物品〔車両及び100万円以上の物品〕

(単位：台)

区 分	前年度末 現 在 高	決算年度中 増 減 高	決算年度末 現 在 高
そ の 他 特 殊 車 両 (油圧式バックホウ)	1	0	1
合 計	1	0	1

5 基金の運用状況

(1) 審査の結果

審査の対象とした一般廃棄物処理施設基金は、北但行政事務組合が設置する一般廃棄物処理施設の撤去に必要な財源を確保するため設置された基金である。その計数は正確であり、設置目的に則して適正に運用されていると認められた。

(2) 基金の運用状況

基金の決算年度末現在高は79,709千円で、前年度より19,202千円増加している。これは、電力売払収入のおよそ10%である19,200千円と基金の運用から生じた収益を積立てたものである。

当年度の基金の運用益金は1,938円で、(款)財産収入(項)財産運用収入(目)利子及び配当金に収入されている。

<基金の運用状況（令和3年3月31日現在）>

(単位：千円)

区 分	前年度末 現 在 高	決算年度中 増 減 高	決算年度末 現 在 高	備 考
一般廃棄物 処理施設基金	60,507	19,202	79,709	現 金
合 計	60,507	19,202	79,709	

※ 基金については、定期預金及び普通預金で運用している。

6 審査の所見

事務処理等に係る要望事項等については、次のとおりである。

〔要望事項〕

(1) 一般廃棄物処理施設基金について

基金については、将来の施設取壊しへの財源の一部として、クリーンパーク北但において発電する再生可能エネルギー電気の売電収入の概ね1割を積み立てることとしている。

取壊しのための財源手立てが限られている中で、有効な手段の一つであり、関係市町の健全な財政運営に資するため、可能な限り基金積立を行われたい。また、積立額が事業のために必要な額となっているか、再計算を行うなど検証に努められたい。

(2) 自主財源確保のための取組について

おもな自主財源であるごみ処理手数料、資源化物売払収入及び再生可能エネルギー電気の売電収入は、いずれも前年度に比べて減収となっている。新型コロナウイルス感染症の影響で社会経済情勢の先行きは不透明であり、依然として厳しい財政状況が見込まれる。

構成市町の負担軽減に資するためにも歳入確保の取組を着実に推進され、収入事務を適正に執行し、より一層の自主財源確保に努められたい。

(3) 構成市町負担金について

事業の運営に必要な経費を積算し、処理（運営）負担金は、均等割及びごみ量割で決定されている。構成市町負担金は適宜精算措置が行われており、当年度の歳入決算における繰越金の減少は、これが組合財政の運営基本を踏まえた適切な対応によるものと言える。

今後の事業運営において、引き続きコスト縮減の努力を行うとともに「最少の経費で最大の効果を」という地方自治の原則を十分認識し、限られた資金を有効に活用するよう一層留意されたい。広域ごみ・汚泥処理の質の高いサービスを継続して実現されることを期待している。

(4) 北但地域の循環型社会形成に向けて

ごみ処理は住民生活を守る不可欠で大切な仕事であり、今後とも「ほくたんハイトラスト株式会社」との連携・協力のもと、北但地域の循環型社会形成に向けて安全安心な施設運営に取り組まれたい。

施設管理のリスクを把握するため、監督・モニタリングを継続して実施し、経費節減の可能性の協議も続けていただきたい。当該施設が環境学習や地域交流の拠点施設として地域に貢献され、さらに成長するよう望むものである。

〔検討事項〕

歳入歳出決算事項別明細書の備考欄について、省略することなく分かり易い表現となるよう検討されたい。